# 令和４年度　南中学校　校内研究

## １　研究主題

自ら気づき、考え、互いに認め合いながら、学び合える生徒の育成
**～１人１台端末を活用した授業実践を通して～**

## ２　研究仮説

授業の中に「南中としての学び合いの姿」を意識した「学び合いの場」を設け、**１人１台端末を活用する**ことによって、生徒の知識や理解が深まるだろう。
・以下の①～⑦の手立てを入れた授業を通して。

① 「めあて」の掲示をする。
② 身近な題材や生徒の興味関心を引くような課題設定、課題解決的なテーマ（動き出したくなる課題）を工夫する。
③ **１人１台端末を活用した**教材・教具の工夫をする。
④ グループ学習を取り入れる。
⑤ 個で考える時間や全体で話を聞く時間を、グループ学習の時間と意識的に使い分ける。
⑥ 「振り返り」の時間を確保することによって、また、いつ「振り返り」をさせるのか（１時間毎か、課題や単元毎か、またはその両方か等）工夫する。
⑦ 「振り返り」の内容を工夫する。

【南中としての「学び合い」の姿】
〇自分の考えを持つ。
〇自分の考えを述べ、他の考えを聞く。
〇他の考えを聞いて、自分の考えと比較する。
〇自分の考えを再考し、他と共有する。

## ３　研究の方向性

### １）研究の柱

「教科研究」を中心に、**１人１台端末を活用した授業づくり**を行う。

### ２）研究組織

「学年グループ」を中心に行う。

・校内研の中で教科ごとの交流の場も設定するが、普段から積極的に交流を行う。
・教科ごとの交流は、校内研の日に設定し、交流する機会をもつ。交流した内容は記録として入力する。※教科が１人の場合は、個人研究とし、甲教協等の場を利用して交流を図る。
**・学年グループごとに南中授業の手立て（探求のプロセス）をもとに、研究を推進する。**
**・一人一実践参観計画表を活用し**、授業参観は必ず２回以上参観する。研究授業以外に、一人一実践の授業や普段の授業を積極的に見合う。
参観したら、授業提供者と口頭や簡単なメモで交流を行う。

南中学校授業の手立て（探求のプロセス）と研究の視点

☆１人１台端末の活用をしたことで、
①めあて、②動き出したくなる課題の提示が効果的にできたか。

☆１人１台端末を活用した③教材・教具の工夫をしたことで、
生徒の思考を助け、理解の促進（深い学び）への入口等とすることができたか。

☆１人１台端末を④⑤グループ学習に取り入れたことで、
まとめや発表等で効果的な活用をすることができたか。

☆１人１台端末を活用した⑥⑦振り返りを実施することで、
学習内容の定着やポイントの整理等に役立たせることができたか。

３）研究の方法

**・１人１台端末を活用し、**生徒の学びをさらに深める授業を行う。

・ICT に関する教員アンケートを実施し、研究を通しての変容を見取る。（５月、１２月）

・研究授業は学年１本行う（一人一実践の授業として扱う）。

・指導案検討は学年＋学年以外（教務・特支）で行うとともに、１人１台端末を活用した授業づくりの意見交換を行う。

・授業参観は他学年の授業を参観し、参観した学年の分析を行う。

**・一人一実践授業は、評価授業とすることも可能。その場合は、自己観察書・教科指導欄に具体的に記載する。**

・参観した学年の授業とその分析を全体会で共有する。

※研究授業は特設６時間目を設定し、３本一斉に行う。授業後、分科会で分析し、全体会で、共有する。

昨年度は、コロナウイルスの感染状況から、授業を事前録画し、編集したものを視聴した。

・各学年の生徒実態（アンケート結果：学齢や学年集団によって異なる課題）に基づき、学校全体で設定した仮設を基に具体的な手立てを研究・検証し、確かな学力向上のための授業改善を図る。

４）学習会の実施

**１人１台端末を活用した授業づくり学習会（授業での有効な活用の手立てなど）**

※甲府市学校教育課情報課推進係スタッフ　鈴木昇　先生　を招聘し、６月の校内研で実施する。

**今年度は ICT 機器 2 年次です。**

**昨年度の校内研究からの改訂点は、下線付きＭＳゴシックのところとなります。**

## ４　研究計画

＜はじめの確認　Plan＞

４月（校内研なし）

５月１１日（水）第１回校内研究会

全体会　・本年度研究の確認

・指導案（教科）の形式の提案

・生徒実態把握アンケートについて（授業、家庭学習）

※アンケート実施期間（５月２３日（月）～６月３日（金））

・ICT に関する教員アンケートについて

６月２８日（火）第２回校内研究会

全体会　１人１台端末を活用した授業づくり学習会

（授業での有効な活用の手立てなど）

**※甲府市学校教育課情報課推進係スタッフ　鈴木昇　先生　を招聘**

＜実践研究　Do＞

７月（校内研なし）

・教科研究授業指導案（導入・発問・終末）や学習プリント・プレ計画検討

・一人一実践授業指導案検討

８月１９日（金）第３回校内研究会

①全体会　・教育課程説明会還流報告（総・道・特活）

②教科部会　・教育課程説明会還流報告（各教科）

・各教科における１人１台端末の活用交流

③学年部会　・教科研究授業指導案の検討、一人一実践授業指導案の交流

９月（校内研なし）

・教科研究授業に向けて各学年で準備、一人一実践授業の準備・実施

１０月１９日（水）第４回校内研究会（教科研究授業・研究会）

・授業参観学年の決定、事後研究会について（事前確認：共通の見取りの視点）

・一人一実践授業の準備・実施

・各教科における１人１台端末の活用交流

＜研究のまとめ　Check＞

１１月（校内研なし）　・教科研究授業のまとめ・入力、一人一実践授業の準備・実施

１２月７日（水）第５回校内研究会

①全体会　・１人１台端末を活用した授業実践交流

②教科部会　・各教科における１人１台端末の活用交流

※生徒授業アンケート（１２月５日（月）～１２月１４日（水））実施

※教員アンケートの実施

１月２５日（水）第６回校内研究会

①全体会　・教員アンケート、生徒授業アンケートの分析結果報告

②教科部会　・１人１台端末の活用交流

＜成果と課題の把握、来年へ　Act＞

２月２７日（月）第７回校内研究会

全体会　・来年度の方向性提案及び検討

３月１７日（金）職員会議内（第９回校内研究会）

・来年度の方向性（仮）報告

令和４年度　甲府市立南中学校　校内研究 全体構造図

〈学校教育目標〉　心豊かで、主体的に行動できる生徒の育成

〈重点目標〉　確かな学力の育成　思いやる心の育成　健康・体力の向上

〈めざす生徒像〉
○共に学び共に育つ生徒
○礼儀正しく思いやりのある生徒
○心身共に健康で、たくましい生徒

指導重点（学校経営方針より）

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善による確かな学力の育成
- ○基礎・基本の定着と学ぶことの楽しさが実感できる授業づくりに努める。
- ○思考力・判断力・表現力を育成するために、自らの考えを記述し、話し合う協働的な学び場を設定した授業づくりに努める。
- ○「見通しと振り返り」「自力解決」「学び合い」等、『甲府スタイル』の授業を実践する。
- ○1 人 1 台端末等の ICT 機器を、授業の場面に応じて効果的に活用した授業づくりに努める。
- ○自主学習ノートの取組を通して、家庭学習の習慣化を図る。
- ○生徒の学力及び学習の状況を全教職員で把握し、確かな学力の育成に向けた授業づくりに努める。

生きる力と思い遣る心を育む生徒支援の充実
- ○道徳科の趣旨を踏まえた授業づくりに努める。

〈生徒の実態〉

【知識・理解】
- ・知識・理解は平均すると標準レベルである。
  しかし・・・個人差が大きい。
- ・知識が相互に繋がっていない。単発の知識である。 関連づけて考えられない。
  つまり、本当の定着ができているわけではない。

【読み・書き・話す】
- ・文章を読み取る力が弱い。
  つまり、本質を読み取ることが苦手である。
- ・説明する力が弱い。
  言葉による説明、文章による説明が苦手である。

効果的な働きかけ
〈家庭学習〉　〈小中連携〉

効果的な働きかけ
〈1 人 1 台端末の活用〉　〈授業実践〉

〈研究主題〉 **自ら気づき、考え、互いに認め合いながら、学び合える生徒の育成**
**～ 1 人 1 台端末を活用した授業実践を通して ～**

「山梨スタンダード」「甲府スタイル」の授業を意識

〈研究仮説〉

**授業の中に「南中としての学び合いの姿」を意識した「学び合いの場」を設け、1 人 1 台端末を活用することによって、生徒自身の知識や理解が深まるだろう。**
**・以下の①～⑦の手立てを入れた授業を通して。**

①「めあて」の掲示をする。
② 身近な題材や生徒の興味関心を引くような課題設定、課題解決的なテーマ（動き出したくなるような課題）を工夫する。
③ 1 人 1 台端末を活用した教材・教具の工夫をする。
④ グループ学習を取り入れる。
⑤ 個で考える時間や全体で話を聞く時間を、グループ学習の時間と効果的に使い分ける。
⑥「振り返り」の時間を確保することによって、また、いつ「振り返り」をさせるのか（1 時間毎か、課題や単元毎か、またはその両方か等）工夫する。
⑦「振り返り」の内容を工夫する。

**【南中としての「学び合い」の姿】**
**○自分の考えを持つ。**
**○自分の考えを述べ、他の考えを聞く。**
**○他の考えを聞いて、自分の考えと比較する。**
**○自分の考えを再考し、他と共有する。**

〈推進組織〉
**・「教科研究」　1 人 1 台端末を活用した授業づくり**
**・一人一実践授業の相互参観による実践交流**